

編集後記

(65巻 第4号 2019年4月)

今、京都は桜がほぼ満開に近い。そして、新年度も始まったなか、次の年号が「令和」に決まった。「ら」行の漢字という事で、少し違和感があるが、これも徐々に慣れてくるのだろう。

「令和」では、どんな事が起きるのだろう。南海トラフは動くのか。AIはどれくらいわれわれの生活を変えるのだろうか。身近なところでは、今の医療制度は維持できるのだろうか。たぶん「平成」以上に変化の速い時代になるだろう。平和な時代であることを祈るいっぽうで、期待と不安が入り交じった複雑な心境になっている。

(小川 修)